

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方修正、    は下方修正 )

#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 16 年 2 月)	今回 (平成 16 年 5 月)	
鉱工業生産	緩やかに増加	<u>おおむね横ばい</u>	
住宅	増加	大幅に増加	

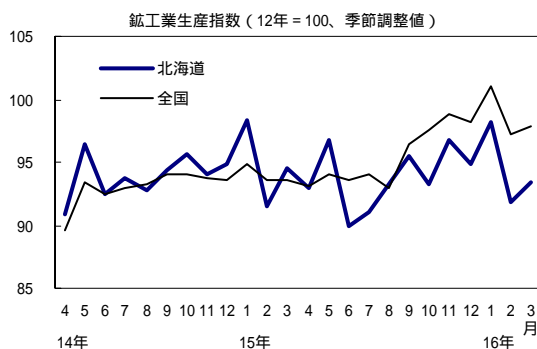
#### 1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産業は前年並みとなっている。

生乳生産は、飲用牛乳等向け、乳製品向けがともに増加し、1～3月期の生産量は943,600tで前年を1.6%上回っている。水産業(主要11港主要品目)は、ほっけ、たら、かれい類が増加した一方、すけとうだら、たこ類が減少し、水揚量は前年並みとなっている。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

食料品・たばこは、1月にビールが減少したことなどから、期を通じても減少となった。パルプ・紙は、新聞巻取紙や印刷用紙などにより減少している。電気機械は、1月に無線通信装置などで大きく増加し、その後反動減はあったものの、期を通じてみれば増加となった。窯業・土石は、公共工事や民間投資の縮小によるコンクリートなどの低下などから、減少している。金属製品は、月により一進一退の動きとなっており、総じてみれば横ばいとなっている。



(備考) 平成16年3月の北海道は速報値。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

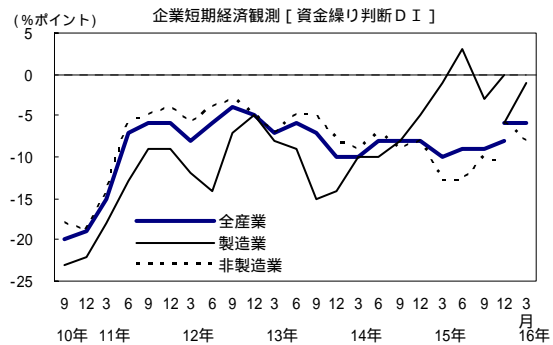
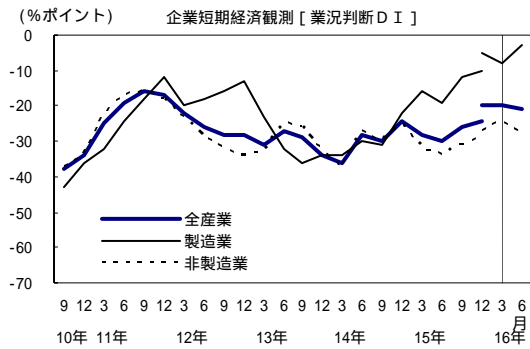
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
食料品・たばこ	26.5	7.4	2.9	6.9	2.0
パルプ・紙	12.1	1.7	2.8	0.6	1.0
電気機械	9.5	7.1	5.2	7.7	12.7
窯業・土石	9.0	1.3	8.0	4.1	4.0
金属製品	9.0	1.7	0.7	0.0	8.0
鉱工業	100.0	1.9	0.6	2.0	1.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1～3月期は速報値。

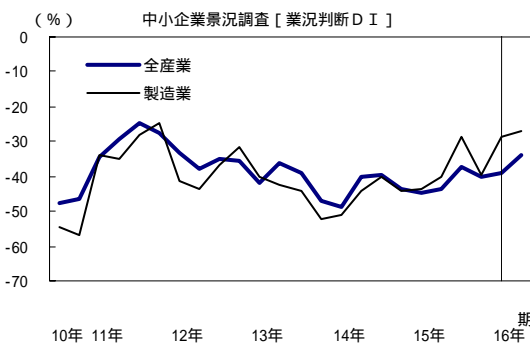
(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査 [ 業況判断D I、資金繰り判断D I ] 及び中小企業景況調査 [ 業況判断D I ]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年6月は予測。  
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査) [ 企業動向関連 (現状判断) ]

「設備資金の需要は相変わらず乏しい。地場の鉄鋼・金属製品メーカーは素材価格の急騰を製品価格に転嫁できず、収益面が厳しくなっている (金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

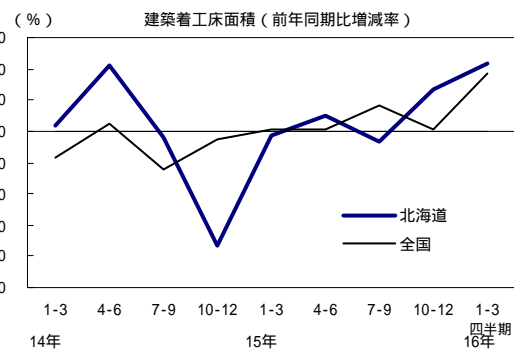
(4) 15年度の設備投資は前年度を下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 (3月調査) ]

(前年度比増減率、単位：%)

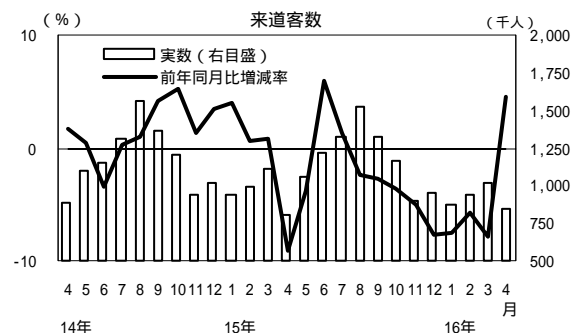
	15年度実績見込み	16年度計画
全産業	14.1 (5.3)	14.2
製造業	19.6 (5.0)	18.5
非製造業	11.6 (5.4)	12.4

(備考) ( ) は前回 (12月) 調査比修正率。電気・ガスを除く。  
15年度実績見込み及び16年度計画ともに、調査見直し後の基準による。



(5) 観光は減少している。

さっぽろ雪まつりの来場者数が、雪不足や規模縮小イメージにより3年連続の前年割れとなり、また、航空運賃の値上げもあり来道者は3月まで8か月連続で減少した。4月は、前年がSARS (重症急性呼吸器症候群) により減少した反動もあり、前年比で増加に転じたが、実数で見ると、一昨年水準には至っていない。



(備考) 北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

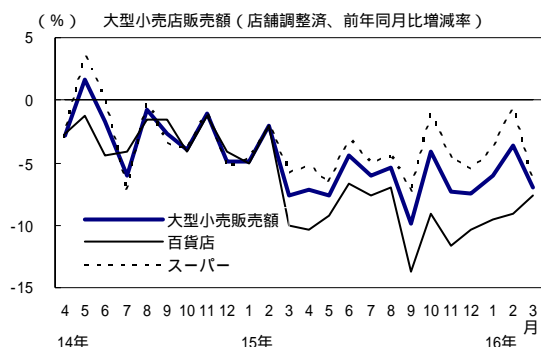
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月に身の回り品に動きがみられ、2月はうるう年やバレンタイン商戦の効果などで比較的好調であった。しかし、3月は多くの品目で低調であった。なお、日本百貨店協会によると、4月の北海道地区の売上高は、前年同月比5.8%減となっている。

スーパーは、2月にうるう年効果がみられたものの、新規出店が続いているための競合などにより、前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査（4月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「消費税総額表示の導入による戸惑いも落ち着いてきたが、先行きに不安があるのか購買行動はまだまだ慎重である（商店街）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

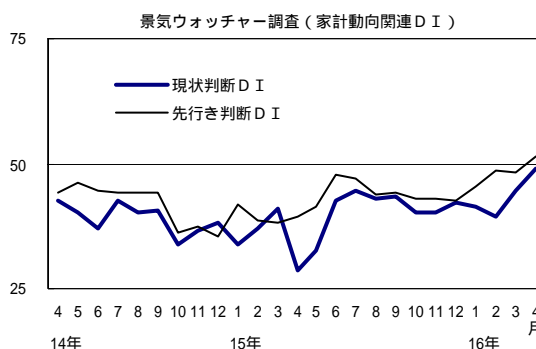
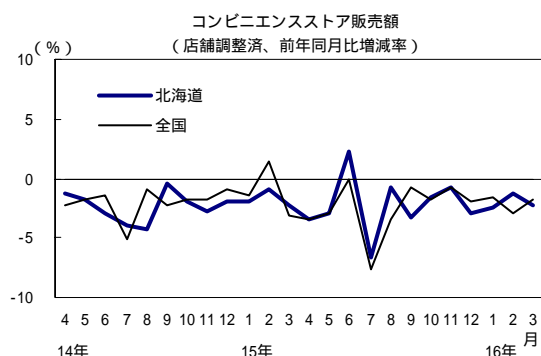


(前年同期比増減率、単位：%)

	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月
大型小売店	6.4	7.1	6.4	5.7
百貨店	8.7	9.5	10.3	8.6
スーパー	5.0	5.7	4.1	3.9
コンビニ	1.4	3.5	1.8	1.9
景気ウォッチャー	34.6	43.7	40.9	41.8

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。

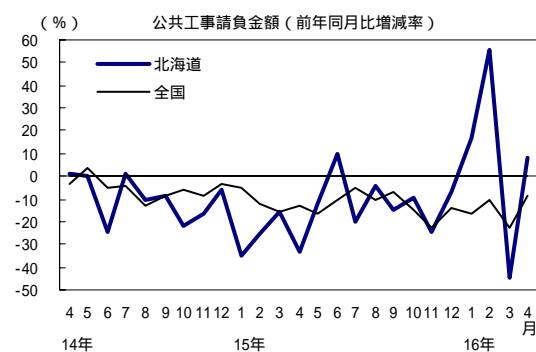
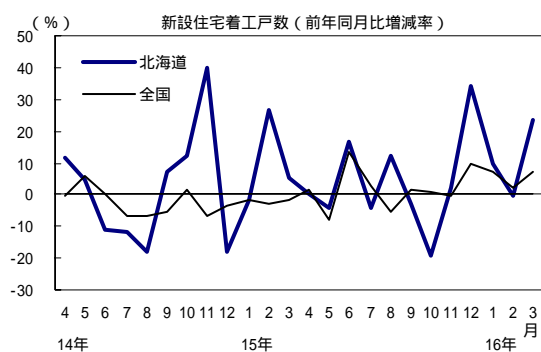
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家と分譲は総じて横ばいであったものの、貸家が前年を大きく上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は15年度累計で見ると前年度を下回っている。

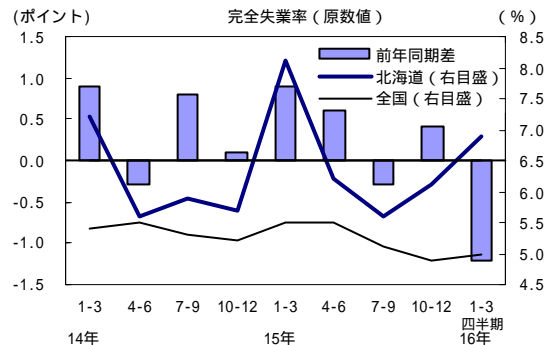
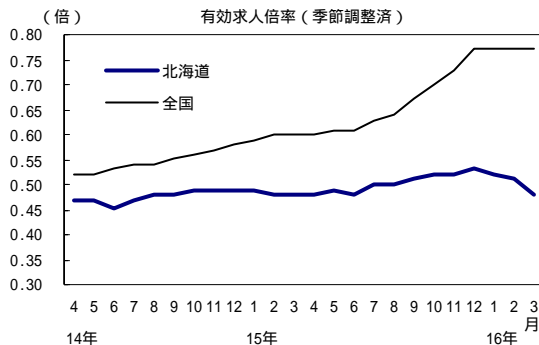


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月調査）[雇用関連（現状判断）]

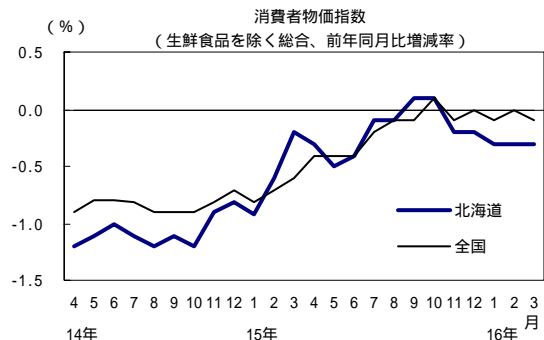
「建設業の求人件数が前年比15%増加しているほか、サービス業も堅調に推移している（求人情報誌製作会社）」など、「やや良くなっている」とする回答が多く見られた一方で、「新規求人は増加しているものの、そのほとんどはパート求人である（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はやや弱含んでいる。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年4-6月	7-9月	10-12月	16年1-3月	16年4月
倒産件数	191	145	137	152	64
(前年比)	2.7	20.3	9.3	29.0	12.3
負債総額	2,610	448	334	445	113
(前年比)	337.8	0.0	67.5	59.7	89.2



景気ウォッチャー調査（4月調査）[合計DI（特徴的な判断理由）]

<現状>

・団体客の小規模化や家族客の激減などにより、道外客・地元客とも客数が減少している（観光型ホテル）

<先行き>

・全国的な新撰組ブームにあやかり、4～7月と函館でも、新撰組関連のイベント等が組まれている。関連施設への観光客の来館も増えている（広告代理店）

景気ウォッチャー調査（合計DI）

